



文苑

國文

◎運動

文科三年 古賀まつよ

煙霞洋々たる長春を謳ふ小鳥、歴亂たる秋草の下に幽語をもらす吟虫、何れかその運動を有せざらん。一滴の水を世界として數も知られず生する動物すら、相應の運動を有すといふ。運動は實に生きとして生けるもの第一要件なりされば生物の長たる人は身体の構造最運動に便にして他の如何なるものも及ばざる輕妙複雑なる運動をなすを得るものなり。

抑運動にもその類種々あるべし、先人の最初に取りしものは生存の必要にせまられたるものにして未開の時代に於て食物を得んが爲に山川に活爽快にして、眞に健全なる身體と健全なる精神とを具備する人格を作るを得しむるものなり。而して第一者は人類社會の生存上必須なるものにして、第二者は生活の勞に疲れたる心身の唯一の治療者となり、又間接には社會の文明に裨益し殊に幼兒の發達はこれによるもの多し。また第三者は一は優美なる性情を養ひ、一は金鐵の体軀と磐石の心膽とをねらんとするに最効あるものにして、第四者は運動中最身體の調和的發達を圖りて各自の體質をして理想の域に達せしめ、併せて團体的行爲に適する心身を得しめんとするものなり。かくの如くして得たる運動の結果は人をして個人として幸福なる樂天生活を遂げ社會に向つては有爲の材として人生の意義を完うするを得しむべし。かく考へ來れば運動は實に人生に必須なる無形の食物といふべし。

蓋從來の教育に於ては比較的精神を重じそのより來る身體を忽にせしを以て意を運動に用ゆること頗淺かりき。されど輓近文明の進歩著し

漁獵し他の危害を禦がむ爲めになごによれるものなり、然れども社會の状態複雑となるに従ひて分れて各種の職業となり、自ら生存必須の運動に用ふる勢力の餘を生じたり、此に於て人は業務の上に遊戯を發明して、それをこれに漏すに至れり。かくて文明の程度進むに従ひ一種の技術を作り出せり、武藝遊藝などいふは即これにして殊に武藝は運動として殆理想的のものと云ふべし、尙近時一種の整然たる秩序を立てる聯合的運動盛に行はるゝに至れりそはいふまでなく体操なり。

かく運動には所謂仕事に屬するもの、遊戯、技術、体操等種々ありと雖、何れも身體を練りその發達をたすけて、精神のよき使役者たらしめ、又よき案内者たらしむるは勿論、精神をも常に敏に遊戯は時として精神の蠹害となることなきにしもあらざれば、かかる點に就きては又相當の注意を要するものあるべし。

◎歸省

文科四年 芳賀晴

歸省はぞ樂しきものはあらじかし如何に苦しきことある時も故郷の二字には慰めらるゝなり友どちうちつゞひて樂しきまごする時は必ず談の家郷に及ばぬことなく父母はかくしておはすらむ弟妹はとして過ぐすらむと思ひやる時はえもいはぬ感のもよはさるゝものなり。實に望郷の念は遊子の片時も忘るゝあたはざる所にして殊にこのおもひの切なるは暑中休暇前十數日の間なり。